

令和6（2024）年度 学生代表者会議を2024年8月27日（火）に開催しました。

当日は、学生委員として各学科から選出された代表学生が8名、大学側からは浅尾学長をはじめ、副学長、各研究科長、各学部長等13名が参加し、本学の自己点検評価書をもとに、カリキュラム内容・学修方法、学生サービス、キャリア支援、教育環境などの現状について、活発な意見交換が行われました。なお、昨年度に引き続き、ZOOMによるオンライン会議で実施いたしました。

【学生の受入れについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
Q1 大学を選ぶときに、どの程度アドミッションポリシー（入学者受入れの方針）を参考にしましたか。また、大学選びでは、何を一番重視されましたか。 アドミッションポリシーはこちら>>>	1	アドミッションポリシーは自分に当てはまるかを確認した程度です。大学選びでは、まず文学について学べるということと、司書について学べる大学を選びました。図書館情報コースというコースがあったため、この大学を選びました。	「アドミッションポリシーは自分に当てはまるかを確認した程度です」とありますが、「文学について学べる」、「司書について学べる」という点を確認されています。その上で、アドミッションポリシーをもう一度見直すと、意味がもっとわかるかもしれません。	文学部（日本語日本文学科）
	2	アドミッションポリシーは5割ほど参考にしました。歴史文化学科に入るに至って、特に重視したのは、4の「歴史や文化に対して高い関心があり、その知識を社会で活かすために、積極的に学びたいという意欲をもっている」ことである。大学選びで重視したのは、歴史を深く学べ、しっかりと専門的な知識をつけた上で教員を目指すことができるかどうかである。大阪大谷大学の歴史文化学科ではこれが可能であった。	歴史文化学科は、歴史と文化を深く学び、学びから得られた専門的な知識を社会で活かしていく人材を育てることを目指しています。アドミッションポリシーで示した方針に沿った授業を提供するよう努めてきましたので、教育内容に満足してもらえて嬉しく思います。今後も、学生の将来に役立つような教育ができるよう努力していきます。	文学部（歴史文化学科）
	3	就職実績を一番重視して大学を選びました。大阪府での実績が高く、公立保育士を目指しているのが、公務員試験に対するサポートが手厚いところが選ぶポイントとして大きかったです。	受験前に大学について調べる中で、卒業後の目標を達成できるかは重要な点であり、大学の広報資料やオープンキャンパスにて本学部の就職実績を知ってもらえたことと思います。今後も一人一人の意思を大切にキャリア支援に取り組んでいきます。	教育学部（幼児教育専攻）
	4	大学を選ぶときは、この大学に入学したときに自分の持っている強みや考えを最大限伸ばすことができるかを判断したり、どのような人材を望んでいるかを判断したりするために、アドミッションポリシーを参考にしました。また、大学を選ぶときに最も重要視したことは、就職率と学生と先生方の関係性はどのようなものかを重要視しました。	アドミッションポリシーが大学選択の参考になるよう、今後も周知を図っていきたく思います。オープンキャンパスでは、各学科の教員が説明や相談に対応しています。教員と直接話をする機会を設けることで、入学後も気負わずに話ができるようになると考えています。就職活動の支援も、このような教員との関係性によって、安心して取り組むことができます。それが、高い就職率につながっていると思います。	入試・広報室
	5	一番重視したことは、取得できる免許と支援教育を専門的に学べるか。	大学選びにおいて、広報資料などを活用されたことと思います。受験生にとって、大学進学し取得できる資格・免許や大学の専門教育は大学を選ぶ際には重視している点であると認識しています。入学前からの学生のみなさんの目標達成のために、今後も教育改善に努めます。	教育学部（特別支援専攻）
	6	アドミッションポリシーは大学を選ぶときに、どういった基礎学力、知識や技能が必要なのかについて参考にしました。	アドミッションポリシーについては、入学してからはなかなかじっくり見てもうらう機会は少ないと思いますが、進学の際には参考となったようであり、さまざまな広報活動が本学を進学先として選んでもらえることにつながったのではないかと思います。	入試・広報室
	7	健康運動や栄養管理の知識を学びたいと考えており、GSCSの資格を取れる点を重視して本学を選びました。	スポーツ健康学科が特性（魅力）としてアピールしている2点に注目し本学を選んでもらい、ありがとうございます。在学中に、その環境を活かし、ぜひあなたの夢の実現のため頑張ってください。	人間社会学部（スポーツ健康学科）
	8	9年一貫高大連携薬剤師育成プロジェクトで大学に入学したため、アドミッションポリシーは参考にしていませんでした。また、薬剤師になりたいという夢を叶える一番の近道が大阪大谷大学への進学でした。	本学を選んでもらい、有難うございました。アドミッションポリシーの「入学者に求める資質」は、本学薬学部に入学者さん全員に求める資質になりますので、一度目を通しておいて下さい。	薬学部（薬学科）
自由記述 その他、学生の受入れについて、気づいた点等があれば記入してください。	9	今でも、利用しない建物などがあり、こんな施設あったんだと知ることがあるので、オープンキャンパスで授業体験だけでなく、学内ツアーのようなものがあるといいと思いました。	オープンキャンパスでは、大学全体の説明、各学科の概要や模擬授業等を通じた学びの内容の説明、学内施設を案内するツアー等を実施し、大阪大谷大学を知ってもらう取り組みを行っています。学内が広く、複数の施設・設備を配置しているため、オープンキャンパスの時間帯ですべての施設等を案内することは難しいです。希望があれば、通常の案内ルート以外でも対応しています。また、入学後の発見も楽しみの一つと思ってもらえると嬉しいです。	入試・広報室
	10	特別支援教育専攻は受け入れ人数が少ないものの就職実績や教員採用試験の高採用率をあまりアピールしきれないのではないか。支援教育を1回生から専門的に学べる大学は近畿圏だと大谷くらいだと思うのでもっとアピールをして入学希望者が増えればよいと思う。	しっかりと取得できる資格や免許を確認し、目標を持って本学を進学先として選んでもらえたようですが、教員採用試験等の実績については、うまく伝わっていない部分があるようです。なお、本学の教員採用試験等の実績及び就職状況等については、オープンキャンパスで本学を訪れたときに教育学部の紹介で知り、これだけ採用されているということは、授業や教員採用試験のサポートがしっかりしているとの印象を持たれたようですが、大学としても、オープンキャンパスでは、実際の声を聞いてもらったりすることを狙いとしています。また、他の方法でも、これらの情報を伝えていくことを考え、教員採用試験等の実績だけでなく、さまざまなことに目配りしながら広報活動を進めていきたく思います。	入試・広報室
	11	入学直後に行われる『プレイズメントテスト』において、入学後の浮かれた気持ちから、薬学部に進学したという緊張感を持てるいい機会だと感じました。しかし、物理または生物の片方を習っていない場合が多く、ある科目の点が低くなってしまふ点は、今年の入学生から適応された『ゼミナール』の選択における成績判断からは免除した方がいいと思います。	プレイズメントテストが入学後の学習の動機付けとなり、また大学側の意図も伝わっているようで喜ばしく思います。学生によって入学前の履修状況が異なることは学部としても認識していますので、専門科目の履修の際の障壁にならないようなプログラムを今後も検討していきます。なお、ゼミナールのクラス分けは、高校での修得者の多い数学、化学のウェイトを高くしていますが、今後も検討の余地があるかもしれません。ご指摘に感謝します。	薬学部（薬学科）

【学修支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q2 「Moodle」や「tani-WA」といった本学の学習支援システムは、利用しやすいものになっていますか。また、教員によるオフィスアワーは活用していますか。	12	Moodleはあまり利用していないが、tani-WAは課題の提出においても、とても利用しやすい。特にコンテンツで授業資料を共有してもらったときにとても見やすく、アクセスもしやすい。	学習支援システムについて、tani-WAは比較的利用しやすいようですが、課題の提出先については統一してほしいとの意見もありますので、それぞれのシステムによって特長が異なるため、2つのシステムを使い分けていることについて1回生の段階でより丁寧な説明が必要であるように感じています。	文学部 (日本語日本文学科)
	13	tani-WAは先生が授業のお知らせや課題の提出場所でよく使用するため利用しやすいが、Moodle・Moodle2は利用する機会が少なく利用しやすいとはいえない。オフィスアワーは存在は知っているが活用したことはない。	学習支援システムのうち、tani-WAの利用しやすさを評価してもらい、嬉しく思います。Moodleについては利用しやすいとはいえないとのことですが、今後、よりよく使ってもらえるようにシステムやマニュアルを整備していきたいと思ひます。オフィスアワーについても活用しやすくなるよう工夫してまいります。	文学部 (歴史文化学科)
	14	できるだけ活用しています。担当の教員の方の時間があるときに、不安なことや気になったことは相談をしています。	「Moodle」や「tani-WA」といった学習支援システムは学生のみならず教員にとっても有益なものだと感じています。学業等での不安等を解決するために、今後も学習支援システムやオフィスアワーを有効に活用してください。	教育学部 (幼児教育専攻)
	15	「tani-WA」は、どの教科で課題が出ているのかが一目でわかるのでとても利用しやすいです。ただ、コースコンテンツに載っているものは通知が来ないため、見逃してしまうこともあります。何かを載せるたびに通知が来るとより利用しやすいと思ひます。「Moodle」は、正直少し使いづらいついて思ひます。ある科目の課題のみ「Moodle」によって出されるのですが、通知が来ないと、どこに課題があるのか少し見づらいついて思ひます。また、オフィスアワーは、大体の時間、授業が入っているため活用できていないのが現実です。質問などは授業内で行うことが多いです。	学習支援システムの利用について課題と提案をありがとうございます。通知方法がメールとなっていますので、リマインド機能なども活用できればと思ひます。オフィスアワーの時間については学生の皆さんと教員の互いの時間が合わない場合があるのは事実です。授業時間またはその前後の時間で担当教員とご相談ください。	教育学部 (学校教育専攻)
	16	Moodleはほとんど開く機会がないのでアンケートの際などなぜtani-WAと使い分けしているのかが分からない。tani-WAは課題のために開くので学修行動調査などもtani-WAで配信されると気づきやすいと思ひます。	本学では複数の学習支援システム(LMS)を利用しているため、混乱を招いているよう思ひます。tani-WAとMoodleという2つのシステムがなぜあるのかということについて、簡単に説明してまいります。まず、tani-WAについては、学生の皆さんも使いやすく、多くの授業でも利用してまいります。ただ、tani-WAは外部の業者が運営しているものであるため、アンケート調査のデザイン等、細かな設定に対応しきれないという短所があります。一方でMoodleについては、教員としても多少ハードルは高いものの、調査をするときには学年ごとに項目を設定する等、細かな対応が可能である点が長所となっています。このように、長所・短所がそれぞれにあり、本学では、その長所と短所を上手く使い分けをしています。また、tani-WAは外部の業者が運営しているものであるため、急なサービス終了といった、こちらが意図しないかたちで利用できなくなるというリスクがあることから、危機管理の面においても、複数のシステムを活用しています。なお、今後は、Moodleを使用した調査を実施する際にも、その周知についてはtani-WAを活用することを検討していきたいと思ひます。	教育・学修支援センター
	17	利用しやすいと思ひます。また、教員によるオフィスアワーはあまり活用していません。	tani-WAやMoodleについては利用しやすいようであるが、オフィスアワーについてはかならずしも活用されていないことがうかがわれる意見でした。本学の少人数制は人間社会学科にとっても重要なポイントであり、これからも学生と教員の距離が近いということをお大事にしていきたいので、学生の皆さんがオフィスアワーを活用するよう、様々な機会をつかって告知するようにしてまいります。	人間社会学科 (人間社会学科)
	18	課題の提出や未提出の課題がわかりやすいです。	「tani-WA」・「Moodle」を課題の提出管理に活用されているようで、よかったです。これからも、課題の出し忘れの防止等に活用してください。	人間社会学科 (スポーツ健康学科)
19	tani-WAは、普段から活用していますが、Moodleはあまり使う機会がないため利用する際に戸惑う時があります。オフィスアワーは、薬学部実験研究棟をあまり使用していないため活用していません。	ご意見ありがとうございます。Moodleやオフィスアワーについて利用に抵抗がある学生がいることを踏まえて、今後改善に努めたいと思ひます。	薬学部 (薬学科)	
自由記述 その他、学修支援について、気づいた点等があれば記入してください。	20	セッション時間が少し短いと感じました。	「セッション時間」とは接続が切れるまでの時間を意味しているとして回答します。tani-WAの場合、業者が運営しているシステムですので大学で自由に設定することができませんが、レポート等をオンライン上で記述するのではなく、Word等で下書きしてから、改めてその文章をレポート入力欄にコピーすることで、セッション時間の短さによる不便がある程度解消されるのではないかと思ひます。	教育・学修支援センター
	21	テストの直前に開催されるセンター講座や後輩学生の学習をサポートするSA(Student Assistant)は、授業についていけなかったり、さらに理解を深めたいときにとても役に立つと感じている。	授業以外でのサポート体制も充実していることが薬学部の強みとなっていることもあり、それを活用してもらっていることを知ることができ、大変喜んで思ひます。自ら情報収集をして積極的に参加してもらっているようですが、これらの取組をよく知らない学生も多いと思ひますので、他の学生へも紹介してください。また、現在はSAから教えてもらう立場であると思ひますが、後輩へ教えることも勉強となりますので、将来的にはSAの立場になって活躍してほしいと思ひます。なお、これらの支援については、薬学教育支援・開発センターが中心となって行っていますので、何か意見等があればそちらに伝えてください。	薬学部 (薬学科)

【キャリア支援について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q3 キャリア教育科目やインターンシップ等、大学から提供されているキャリア教育支援は、自分が希望している内容となっていますか。また、キャリアセンターや教職教育センターは、気軽に足を運び、進路等について相談できる場所となっていますか。	22	就活のことについてよく知れる支援行事になっていると思います。キャリアセンターはまだ利用したことないのですが、一度行ってみようと思っています。支援行事等でいつでも利用してくださいとやさしく案内してくれるので、行きやすいです。	今後も引き続きキャリア支援内容の充実や、学生の皆さんにとって利用しやすい施設となれるよう努めていきます。	キャリアセンター
	23	私が参加したキャリア教育支援は、企業研究や教育インターンシップなどであったが、どれも非常に満足できる内容であり、そのサポートも適切であった。キャリアセンターや教職教育センターは足を運ぶ必要があるという点では、学生全員が気軽に利用できるとは言い難い。 tani-WAのような学生用アカウントで使用できるキャリア及び教育の相談窓口を設けるなどするとお良いと考える。	教職教育センターでは、多くの学生の皆さんへの支援を続けていきたいと思っています。 教職教育センターでは教員アドバイザーが常駐し学科を問わず誰でも利用できます。センター内にはさまざまな教採に関する情報（ボランティア活動のお知らせ、最新の教員採用試験の動向データ、講座のお知らせ、図書や雑誌の貸出、自習室等）が集約され総合的な支援ができる施設となっています。 3号館2階にあります。教職に興味のある方は是非一度、足を運んでもらえればと思います。	教職教育センター
		(会議当日追加の意見) 各センターに直接行ってもどうしたらよいかわからないので、インターネットを介して事前に相談する内容を決めておくと行きやすく、「No.27」の説明にもあるようにLINE等を活用するとしても、相談内容が決まっていないと行きにくいので、具体化してから相談に行きたい。	【キャリア教育支援について】 今後も引き続きキャリア支援内容の充実に努めていきます。 【相談窓口について】 現状ではtani-WAにそのような窓口は設けてはいません。 具体的にはどのようなものを希望しているのか教えてもらえませんか。 例えば、tani-WAでチャットを活用して相談するようなことでしょうか。	キャリアセンター
	24	わからないことを尋ねたら、親身になって話を聞いてくださり教えてくださるので、気軽に相談できる場所となっています。	学生の皆さんにとって利用しやすい施設となれるよう引き続き努めていきます。	キャリアセンター
			今後も教職教育センターでは、多くの学生の皆さんへの支援を続けていきたいと思っています。	教職教育センター
	25	とてもそう思います。一般企業を目指している人は一般企業でのインターンシップがあり、教員を目指している人は教育関係のインターンシップがあり、自分に合っているものを選択することができているので、希望する内容になっています。また、それぞれのセンターの方々はとても親身になって相談に乗ってくださいたり、アドバイスをいただけたらりするので、気軽に足を運ぶことができます。	No.22で対応	キャリアセンター
			No.24で対応	教職教育センター
	26	教育実習の前にインターンシップに行くなど現場を知る機会はあると思います。	教育インターンシップのほかにも、学校支援学生ボランティア等で教育現場を知る機会があります。様々な支援を行なっていますのでぜひ教職教育センターを今後も利用して下さい。	教職教育センター
	27	キャリア教育支援は、自分が希望する内容となっている。	キャリア支援に対しては、他の学生委員からの意見をみても、肯定的な意見が多く安心しました。現在は、tani-WAを中心に支援を行っていますが、キャリアセンターをさらに利用してもらえるようにLINEを活用することを検討していて、1人でも多くの学生にキャリア支援に関する行事等に参加してほしいと考えています。また、本学は小規模大学にもかかわらず、公務員、教員、薬剤師、民間企業といったように進路が多岐にわたっています。それらに対応するために、動きの早い民間企業等の最新情報を収集したり、教職教育センターとも連携を図ったりしながら学生の皆さんの支援をしていきますので、積極的にキャリアセンターを活用してください。	キャリアセンター
	28	就活の際、不安なことや疑問に思っていることはキャリアセンターや教職教育センターに行くことと適切にアドバイスや今後どうすれば良いかなどを教えてくれるので進路について相談できる場所であるし、気軽に足を運べると思います。	No.24で対応	教職教育センター
29	対応が早く相談にも乗ってくれるのでお世話になっています。	No.24で対応	キャリアセンター	
		No.24で対応	教職教育センター	
30	キャリア科目は『ロジカルシンキング』を履修しましたが、コンパクトに文章をまとめ、相手に要点伝えやすい文書を作成できるようになる良い科目だと感じました。 キャリア教育支援は、私がなりたい職業が特殊なため、案内されることはなかったと思いますが、先日の公務員採用試験の案内についての質問で、近畿厚生局の案内のPDFを添付していただきました。 キャリアセンターや教職教育センターは、教室がどこにあるのかまだ把握できていません。また、利用したことがないため、意見を述べることはできません。	今年度から1回生の必修科目「キャリア概論」の中で「キャリアセンター」についての説明を行っているのに加え、1・2年生時の基礎ゼミで「キャリアセンターツアー」を取り入れてもらえるよう働きかけ、キャリアセンターの認知度向上に努めていきます。	キャリアセンター	
		教職教育センターは3号館2階にありますので、興味があれば是非一度足を運んでもらえればと思います。	教職教育センター	
自由記述	31	授業以外での教育現場との関わりは、自分で調べないと分からないことも多く、2回生の小学校でのインターンシップ演習で初めてこどもと関わるとい声も聴いたので、さまざまな自治体が行っている学習ボランティア等の採用情報なども知ることができたらよいと思う。	教育現場とのつながりについては、どのようにすればよいのか悩んでいることが多いと思います。ボランティアに関する情報については、その都度掲示板等を通じて案内しているものの、今後は、tani-WAを活用していくことも含めて、学生の皆さんへ伝える方法を検討していきたいと思っていますので、よいアイデアがあれば提案してください。	教育学部 (特別支援専攻)

【学生サービスについて】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q4 奨学金等の経済的な支援や課外活動における支援・指導は、適切であると感じていますか。	32	はい（奨学金等の経済的な支援や課外活動における支援・指導は、適切である）。	学生の皆さんに必要な奨学金制度について、これからも学生課では情報収集とともに、周知方法の検討を進めていきます。課外活動においても、皆さんの活動を支援していきます。	学生部
	33	奨学金における支援は適切であるが、その指導には不服がある。私が一年のときに奨学金継続説明会と塾のバイトが重なったときがあり、その時の事務員の対応が本当に酷い対応であった。さらにはこの説明会の日程がメールでの通知の二週間後などであり、一カ月でシフトが組まれる仕事や塾などの固定シフトの仕事では日程を調整することが難しい状況であった。それにも関わらず「仕事よりも奨学金説明会を優先すべき」や「予定早く出たのにシフトいれるってどうなの」などと言われ、非常に腹立たしい気持ちを抱いた。なお課外活動への支援において、指導は十分である。しかし、支援においてはキャンパスメンバーズにおける学内での意見違いなどがあり、学生が安心して活動しづらい状況となっていた。学生が大学及び学園内のお金の心配をし活動を制限されてしまう状況は改善すべきであると思う。	【奨学金について】 No.48で対応	学生部
			【課外活動について】 課外活動支援については、今年度よりスポーツ支援センターが設立され、最初は、学生のみなさんに混乱を招いた状況もあったかと思いますが、今後はよりきめ細やかな支援ができるよう、大学・法人ともに改善に向けて検討していきます。 【キャンパスメンバーズについて】 今年度も継続することになっていますので、是非利用してください。	学生部
	34	課外活動の試合等の欠席が、公欠扱いにならないので、欠席届を出すと公欠扱いにしていたきたいと思っています。	課外活動マネージャーハンドブックにあるとおり、本学では「公欠制度」はありません。担当部署が欠席届を受理した上で、本人からの授業担当教員への連絡により、出席配慮対象となりますので、ご了解ください。	学生部
	35	奨学金の支援は適切であると感じているが、課外活動における支援に関しては、部活動によって活動場所の差が少しあると思う。強化指定クラブとそうでないクラブの差があることは理解しているが、部費のみではどうしても賄えない部分があり、練習場所の差もあると感じている。	奨学金については適切に支援ができていて、十分に活用してもらっていることがわかりましたが、本学独自の奨学金、例えば、入学試験成績優秀者を対象にした奨学金等、まだまだ学生の皆さんに浸透していない支援もあるのではないかと感じています。経済的な支援については、学生の皆さんのニーズに合わせて拡充しているところですので、大いに活用してほしいと思っています。また、強化指定クラブについては、優秀な戦績や結果を出すことが使命となっていることから、他のクラブとは補助金の配分が異なっていて、どうしても活動場所等において差が生じてしまっているのが現状です。なお、令和5年度にスポーツに取り組む学生や団体を支援することを目的としてスポーツ支援センターが設置されました。スポーツ支援センターともこれらの課題を共有し、充実した支援を行っていけるように検討していきたいと思っています。	学生部
	36	はい（奨学金等の経済的な支援や課外活動における支援・指導は、適切である）。	学生の皆さんに必要な奨学金制度について、これからも学生課では情報収集とともに、周知方法の検討を進めていきます。	学生部
	37	適切であると考えます。	No.32で対応	学生部
38	外部での練習をしている団体は補助金が足りていないところもあるので、補助金を増やすか、学内で練習をできるように設備を整えて欲しいです。	補助金については、課外活動団体に割り当てられる予算総額が減額している為、増額は難しいのが現状です。学内での活動場所が限られていて、負担を掛けていることは認識していますが、学内施設の整備については、全学的に取り組んでいますので、ご理解をお願いします。	学生部	
39	奨学金等の経済的な支援や課外活動における支援・指導は、手厚いものだと感じています。	No.32で対応	学生部	

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
Q5 保健室や学生相談室は、健康等に不安を感じたときに、それらは気軽に足を運べる場所となっていますか。	40	はい（保健室や学生相談室は、気軽に足を運べる場所となっている）。	体調不良やケガの時はもちろん、健康等に不安を感じた時には気軽に保健室を利用してください。これからも安心して利用してもらえるよう丁寧な対応を心がけていきます。	保健室
			新入生対象の学内ツアー時に、今後も学生相談室に立ち寄ってもらい、カウンセラーが説明をおこなったり、面接室を見てもらったりすることで、入学最初の時期に学生相談室の存在を知ってもらうようにします。また、大学HP>在学生（保護者）のページ・active academyにて、心の健康に関する内容を記載した「こころ、ほっこりー学生相談室だよりー」の発信を引き続き定期的におこない、相談場所の1つとして学生相談室を思い出してもらえるようにしたいと思います。	学生相談室
	41	利用したことがない。そもそも保健室があることすら知らない学生も多くみられる。ネットや掲示板を通じてもっと存在をアピールするべきである。	保健室の存在や場所を知らないという意見が聞かれるため、保健室の場所や利用方法、対応内容等を記載した「保健室のご案内」のリーフレットを令和4年度より新入生全員に配布しています。また、掲示板へのポスター掲示も行っていますが、Webの活用も併せて今後も周知に努めていきたいと思っています。	保健室
			学内の複数の掲示板にポスターを掲示し、ポスター横には持ち帰り自由のリーフレットを置いています。また、大学HP>キャンパスライフには「学生相談室」のページがあります。さらに、大学HP>在学生（保護者）のページには「こころ、ほっこりー学生相談室だよりー」を、ティーアワー開催時にはその案内・報告を掲載しており、掲載時にはactive academyでも（1年生にはtani-WAでも）発信しています。今後も学生相談室の存在を知ってもらうよう、より工夫をしていきたいと思っています。	学生相談室
	42	気軽に足を運べる場所になっている。体調が悪く、保健室を訪ねた時に、すごく親身に話を聞いてもらい、安心することができた。	体調が優れないときに安心して利用してもらえることができ、よかったです。ただ、以前から、保健室・学生相談室ともに場所が分かりにくいとの意見があがっていたこともあり、新入生を対象としたフレッシュミーティングの学内ツアー等を活用し、学生相談室・保健室の場所の紹介を組み込み、多くの学生に見学してもらえる取組を始めました。また、上回生に対しては、保健室のパンフレットを作成したり、学生相談室ではtani-WAや大学ホームページ等を通じて、ティーアワーの開催や「こころ、ほっこりー学生相談室だよりー」を作成する等、こころの健康に関する情報発信を行ったりすることで、学生の皆さんに気軽に足を運べる場所となるようにしていきたいと思っています。	学生部
	43	私自身が一度も使用したことがないため、気軽に足を運ぶことができるかという点では判断しづらい部分がありますが、不安を感じたときにそのような場所があると知っておくだけで足を運びやすくなり、相談できる場所があると知っているだけで心が救われることもあると思いますので、足を運びやすい場所ではあると思います。	体調不良やケガの時はもちろん、健康等に不安を感じた時には気軽に保健室を利用してください。必要と感じた時にいつでも利用してもらえるように、保健室の場所や開室時間等について、掲示板等で引き続き周知していきたいと思っています。	保健室
			No40で対応	学生相談室
	44	はい（保健室や学生相談室は、気軽に足を運べる場所となっている）。	No.40で対応	保健室
			No40で対応	学生相談室
	45	気軽に足を運びやすいと思う。	No.40で対応	保健室
			No40で対応	学生相談室
	46	気楽に足を運べる場所だとは思いますが各場所を分かっていない人が多いと思います。特に学生相談室は保健室に比べ利用する人が少ないと思うので場所を知らない人が多いのではないのでしょうか。	No.41で対応	保健室
			学生相談室に相談に来た学生の実人数は毎年170人前後、延べ人数では1200人程度で、他大学に比べると利用率は高い方と言えます。場所を知ってもらうことは大事なことだと思いますので、新入生の学内ツアー時には学生相談室にも立ち寄ってもらい、カウンセラーが説明をおこなったり、面接室を見てもらったりしています。今後も学内ツアー時には必ず立ち寄るように教職員に呼びかけて、入学最初の時期に学生相談室の存在を知ってもらうようにしたいと思っています。	学生相談室
47	幸い、身体的にも精神的にも不安などを抱えたことはありませんが、そのような場所があるだけで心のよりどころになると思います。	No.43で対応	保健室	
		No40で対応	学生相談室	

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答（150字程度）	担当部署
自由記述 その他、学生サービスについて、気づいた点等があれば記入してください。	48	<p>学生課の対応に不満を抱いている学生が多い。具体例としては、以下のとおり。</p> <p>①「部活の試合で公欠と認められたにもかかわらず、難癖をつけられ、認められなかった」</p> <p>②「定期区間変更の相談の際、高圧的な態度であった」</p> <p>③「奨学金継続説明会とアルバイトが重なり、その調整が難しい状況であることを相談にいったときの対応がよくなかった」。</p> <p>対応の仕方、学生に寄り添う態度等、さまざまな点で改善してほしい。</p>	<p>意見を真摯に受け止め、学生の皆さんへの対応について事務局で話し合い、改善に努めていきたいと思ひます。</p> <p>学生の皆さんへの寄り添う態度等、学生課においても対応の仕方について話し合い、改善していきたいと思ひます。なお、個別の回答については、以下のとおりです。</p> <p>①部活動の公欠について 本学には公欠制度はありません。公式試合等の場合には事前に教員へ伝え、欠席届を提出してもらっていて、それを活動の証明としています。なお、欠席届の取扱いや書類の不備等に対して説明する場合であっても、丁寧な言葉を遣って声をかけるように改善していきたいと思ひます。</p> <p>②定期区間変更について 通学定期区間の承認にはルールがあり、それに則って行っていることから、希望通りの変更が認められなかったのではないかと考えられますが、そのルールについては説明不足であったと思われるので、学生の皆さんに納得してもらえるように丁寧に説明するようにしていきたいと思ひます。</p> <p>③奨学金継続説明会について 奨学金継続説明会の開催については、開催の2週間前に在学生オリエンテーションや凜ウェブ等を通じて伝えていますが、それだけではうまく通知できていなかったようです。今後は、学生の皆さんへの対応の改善だけでなく、日程調整が可能ないように、1か月前から通知をする、複数の方で通知する等、通知方法についても検討していきたいと思ひます。</p>	事務局長
	49	<p>学生相談室の場所は少し気づきにくい場所に位置しているのかなと思ひます。</p>	<p>学生相談室が気づきやすい場所にあると、利用したい人が人目を気にして利用しにくくなる恐れがあるため、少し気づきにくい場所に設置しています。しかし、場所が分からないと相談に来にくいことは確かですので、新入生対象におこなっている学内ツアーでは、学生相談室にも立ち寄りてもらい、カウンセラーが説明をおこなったり、面接室を見せたりしてありますので、引き続き、取り組んでいきたいと思ひます。</p>	学生相談室

【学修環境の整備について】					
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署	
Q6 校舎、図書館、体育館、情報処理施設、休憩スペース等は、適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっていると思いますか。	50	はい（適切に整備され、利用しやすい快適な教育研究環境になっている）。	ありがとうございます。今後とも学生の皆さんが利用しやすい快適な教育・研究環境の構築に努めていきます。	学長	
	51	どこも適切な整備がされている。しかし大声で叫ぶ・明らかに公序良俗に反する会話をしている・暴れている学生などがおり、必ずしも利用しやすい教育研究環境であるかは微妙である。そのため図書館以外の少量の声で友人と勉強できるような自習スペースを設けることを希望する。	使用する際のマナーが悪いことについては、掲示等により啓発をし、少しでも利用しやすい環境整備に努めます。ラーニングcommonsは、グループ学習を前提としており、話し合いながら勉強することは可能です。是非利用してください。	学長	
	52	第二体育館が、第三体育館よりも熱気がすごく熱がこもりやすいため、エアコンなどの電気設備や風通しがよくなってほしいと思います。	No.53で対応	学長	
	53	校舎は古いが不便な部分はないと感じている。 図書館は広すぎるので、もう少しわかりやすい看板などを付けてもらえると助かると思う。 体育施設は、第3体育館は新しいということもあり、エアコンが完備されており、更衣室もきれいでとても使いやすい。しかし、第2体育館やウェルネスセンターはエアコンが完備されていないため、夏場は本当に暑い。熱中症が多発する原因にもなると思う。	【図書館について】 図書館が広いという感想、わかります。約48万冊という蔵書の多さは他大学からも賞賛される点です。皆さんに利用しやすくなるよう、各層の踊り場やOPAC端末に館内地図、本館閲覧室にはLibrary MAPを設置し、図書館HPでは館内案内などガイダンス動画を公開していますが、もし他にも何か良いアイデアがあれば、提案してもらえると嬉しいです。	図書館	
		情報処理施設はパソコンの台数も多く、だれでも使うことができているのでいいと思う。ただ、いくつかの教室のパソコンでは最新のものが取り入れられていないため、プレゼンなどをすると、自分の作ったパワポと少し異なった状態で提示されてしまうときがあるので、最新のものを取り入れてほしい。	【体育施設について】 第2体育館やウェルネスセンターについては、大型扇風機を設置しているものの、厳しい暑さの中で利用していることは大学としても認識していますが、空調設備は多額の費用がかかるため、すぐに設置することは難しいので、現在のところは、熱中症に注意しながら活動してください。		学長
		休憩スペースに関しては、志学館1階に多くの方が集まると思うが、広い割には椅子と机が足りないことが多々ある。また、だれも弾かないグランドピアノが場所をとっているのではないかと。もう少し工夫して椅子や机を設置してもらえるとより多くの方が使うことができるのではないかと。	【情報処理施設について】 単純にソフトを入れ替えるだけでなく、処理能力が速いパソコンが必要となってくることから、最新のパソコンへの入れ替えを進めていきたいと考えています。 【休憩スペースについて】 ラーニングcommonsは、16号館（成和館）2階にもあるので、そちらも利用してください。なお、グランドピアノについては、活用方法を検討していきたいと思っています。		
	54	校舎は階段が多く車いすでの移動やけがをしている人にとって過ごしにくい環境になっている。限られた場所にしかエレベーターが設置されていないこともあり、移動に制限があるように感じている。また、ゼミで合宿施設を利用したが、畳の部屋ではアレルギー症状が出てしまうので、使いやすいように改善してほしい。	バリアフリー化が進んでいないことは大学としても認識していて、今年度入職した車椅子を利用している職員の助言も受けながら、これまで気づかなかったバリアも含めて改善していきたいと考えています。	学長	
	55	ゼミで合宿施設を利用したが、畳の部屋ではアレルギー症状が出てしまうので、使いやすいように改善してほしい。	合宿所の畳をフローリングにする等の改修を行うことは難しいですが、アレルギーの原因となる埃やダニについては、対策を講じていきたいと思っています。	事務局長	
	56	大学の学修環境の整備は利用しやすいものになっていると思います。	No.50で対応	学長	
	57	第1体育館を取り壊して、グラウンドが作られる予定だったのに、まだ作られていないので早く取り壊してほしい。 ウェルネスアリーナの雨漏りや、第二体育館の時計が壊れているので直してほしい。 体育館の空調設備を良くしてほしい。特に夏は暑いので、自分たちで水分補給や塩分チャージなどで体調管理をしているが、熱中症の人がでてしまうかもしれない。 23号館にある部室は遠く、階段も急なので2階の団体は荷物を運ぶのに大変なので新しくするか、場所を変えてほしい。 コロナ禍で9時半からの授業だったが、今元に戻り9時スタートになった。家が遠い人は出る時間が早くなり、朝練のある団体は更に練習の時間が早くなったり、午後練習になり、夜は暗い中練習することになるので、9時半スタートに戻してほしい。	【第1体育館について】 グラウンドではなく図書館にする予定でしたが、現在、計画は止まっています。なお、第1体育館は骨組みがしっかりしているため再利用が可能なので、今後、検討していきたいと思っています。 【ウェルネスアリーナの雨漏り、第2体育館の時計の故障について】 総務課（大学施設係）にて対応していきます。 【体育館の空調設備について】 上記、「体育施設について」にて回答済み。 【部室について】 現在のところ、他の場所を用意することは難しい。 【授業開始時間について】 以前、新型コロナウイルス感染予防対策の一環として、授業開始時間を9時から9時30分に変更（休み時間の変更を含む）した際にも、課外活動団体より、授業の終了時間が遅くなることにより、活動時間が短くなるので改善してほしい旨の声があがりました。なお、授業時間については、「大阪大谷大学文学部・教育学部・人間社会学部授業科目履修規程」「薬学部授業科目履修規程」に規定されていることもあり、メリット・デメリットをきちんと検証したうえで、決定する必要があります。学生の皆さんの意見も聞きながら、検討していきたいと思っています。	学長	
58		これらの施設において、不満などは感じたことはありません。	No.50で対応	学長	
自由記述	59	学食での定食だけでなく、学内でパンなどの軽食を売ってほしい。志学館に少しパンは売っているが、種類が少ないし、菓子パンばかりなので昼ご飯に食べるには少し向いていないように感じる。総菜パンなども買えるととてもうれしい。 ドアが勢い良く閉まる教室があることが少し気になっている。	近々、大学近隣のコンビニエンスストアが閉店となることもあり、現在、学内でサンドイッチや総菜パン、アイスクリーム等を販売する計画を立てているところで、今年度中にトライアルできるように検討しています。また、教室のドアの調整については、該当箇所の確認ができたい対応していきたいと思っています。	事務局長	

【学生の意見・要望への対応について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q7 学生による授業評価アンケートや学修行動調査等の結果は、学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていますか。	60	はい（学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されている）。	反映されているのご意見、大変参考になります。調査結果から改善を要すると判断された事項については、すぐに取り組めるものとそうでないものがありますが、可能な限り迅速に取り組みたいと思います。	教育・学修支援センター
	61	反映されていると思う。	No. 60で対応	教育・学修支援センター
	62	反映されていると思います。	No. 60で対応	教育・学修支援センター
	63	アンケートに回答した授業を来年度も履修することがほとんどないので、実際に反映されているかどうかはわかりません。	No.66で対応	教育・学修支援センター
	64	いいえ（学修支援や学生生活、学修環境の改善に反映されていない）。	反映されていないのご意見、ありがとうございます。調査結果から改善を要すると判断された事項については、すぐに取り組めるものとそうでないものがありますが、可能な限り迅速に取り組みたいと思います。早急に改善を求めたい点につきましては、ぜひ近くの教職員に投げかけてください。	教育・学修支援センター
	65	反映されていると思います。	No. 60で対応	教育・学修支援センター
	66	授業評価アンケート等に答えてもあまり反映されている気がしない。	【授業評価アンケートについて】 学生の皆さんから回答してもらって終わりではなく、学生の皆さんからの生の意見に対して、教員は考察し、授業の改善を行うようにしています。なお、教員からのコメントや改善計画等の内容については、学内（Active Academy）で閲覧することが可能ですが、周知が不足しているのかあまり認知されていないことが課題となっています。また、他の学生委員から、アンケートに回答した授業を来年度も履修することがほとんどないので、実際に反映されているかどうかはわからないとの意見がありました。授業評価アンケートは授業全体を通した最後に実施していることもあり、学生の皆さんにメリットのあるかたちでフィードバックしたいのですが、物理的には難しい。ただ、直接的には反映された実感はないかもしれませんが、これまでも先輩が回答してくれたことで、より改善された授業を皆さんが受講することができています。そう考えると、皆さんがアンケートに回答してくれることで、今度は後輩たちのよい学びへとつながっていくことになるので、是非、今後もアンケート調査には積極的に協力してください。 【学修行動調査について】 自由記述欄に記載された貴重な意見について、関係する学部・学科、部署へ共有し、可能な限り対応していくように働きかけを行っているところです。なお、意見、要望については、それがすぐに対応できるもの、また、何か対策ができるものばかりとは限らず、良かれと思って行ったことが別のところで影響を及ぼすことも考えられることから、慎重に吟味したうえで、検討を重ねて対策をしていきたいと思っています。	教育・学修支援センター
67	あまり反映されているようには思いません。	No. 64で対応	教育・学修支援センター	
自由記述	68	—	—	—
自由記述	68	—	—	—

【単位認定、卒業認定、修了認定について】				
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q8 シラバスに記載されている評価基準等については、わかりやすく、適切に定められていると思いますか。	69	はい（評価基準等については、わかりやすく、適切に定められている）。	今後も、わかりやすく、適切な評価基準を徹底し、見直しをもって学修に取り組める評価基準をすべての授業で徹底していきます。	教務部
	70	科目によるが、基本的にはわかりやすく適切であると思う。	今後も、わかりやすく、適切な評価基準を徹底するとともに、科目間のバラつきをなくし、見直しをもって学修に取り組める評価基準をすべての授業で徹底していきます。	教務部
	71	教育学科幼児教育専攻に設置されている「子育て支援」「遊び文化」「自然教育」の3つのコースの修了認定に必要な科目と、自分が取得したい幼稚園教諭免許や保育士資格に必要な必修科目の時間割が重なってしまい、友人とも相談しながら、必修科目のほうを優先し、コースの科目は次年度に履修することにした。できれば、コースの修了認定に必要な科目と必修科目が重ならないようにしてほしい。	熱心に免許取得・資格取得に取り組んでいる学生ほど、授業が重なってしまう状況になっていることから、この3年ほどかけて、科目の整理と時間割の整理に取り組んでいて、必修科目を取りやすく、また、できるだけ希望する科目が取りやすくなるように時間割の編成にも工夫をしているところです。なお、受講について優先順位に迷ったときは、是非、学科へ相談してほしいと思います。また、評価基準について、「可」と「秀」以外の基準もしっかり示してほしい、平常点の割合を増やしてほしいといったような意見には、誠実に授業に取り組んだことが評価にきちんと反映してほしいという願いが込められていると思います。学生の皆さんが行ってきたことがどのような評価にあたるのかということが明確に分かるような評価基準・シラバスになるように改善していきたいと考えています。	教務部
	72	「可」と「秀」のみの評価基準しか書かれていない科目もあります。すべての評価基準を書いてほしいと思います。	No.71で対応	教務部
	73	はい（評価基準等については、わかりやすく、適切に定められている）。	No.69で対応	教務部
	74	学生にわかりやすく記載されていると思います。	No.69で対応	教務部
	75	先生によって異なってくると思いますが、大多数はわかりやすく、適切であると感じます評価基準をシラバスや授業スライドに適切に記載があるため出席点や課題提出がどれほど大切かがよくわかります。	シラバスから出席点や課題提出の大切さに気づいたとのこと、とても大切なお意見です。今後も、わかりやすく、適切な評価基準を徹底するとともに、科目間のバラつきをなくし、見直しをもって学修に取り組める評価基準をすべての授業で徹底していきます。	教務部
	76	わかりやすく適切だと思いますが、もう少しだけ平常点の割合を増やしてもいいんじゃないかなと思います。	No.71で対応	教務部
自由記述	77	教職科目において、CAP制度の説明が足りない。履修の手引きや大学ホームページにはきちんと書いてあるが、公民の科目の説明のみでなくその説明も口頭でしてほしい。	専門教育、共通教育以外の資格等の取得に関する科目については、CAP制度の説明が足りていないところもあったと思います。今後は、オリエンテーション等において口頭で説明する場合には、免許等を取得するときにはCAP制度のことも考えて履修できるように、丁寧に説明するように心掛けたいと思います。	教務部

【教育課程及び教授方法について】					
質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署	
Q9 各学科のカリキュラムについては、学びたい科目が設定されていますか。	78	はい（学びたい科目が設定されている）。	「学びたい科目が設定されている」という意見をもらい、希望する学びにつながっていることが確認できました。今後も、学修者の関心や要望を適切に把握し、学びたいことに合致したカリキュラムづくりに取り組みます。	教務部	
	79	考古学・歴史学・美術史学とさまざまな科目を学ぶことができ、とても良いと思う。	歴史学・美術史学・考古学を軸とする本学科の多様なカリキュラムを評価してもらい嬉しく思います。5つの基幹コース、3つの選択コースが提供している科目の内容は、各々が緊密に関連しています。幅広く履修することで、歴史文化の学びを深めてもらうことも目指しています。	文学部 (歴史文化学科)	
	80	各学科の学びたい科目は必修の科目とかぶっていない場合はできるだけ設定しています。	ご意見から、学びたい科目が学べていることが確認できました。今後も、学修者の関心や要望を適切に把握し、学びたいことに合致したカリキュラムづくりに取り組むとともに、受講したい科目が重複しないように調整を図っていきます。	教務部	
	81		私は教育学科で学びたいと思ったものを学ぶことができた。教職関係の授業などであれば他学科の教職を学んでいる学生と合同で受けることで新しい考えを持つことができるのではないかとも思った。	カリキュラムに関しては、学びたい科目が学べているということで安心しました。後輩の学生の皆さんにも、そういう学びができるということを伝えていきたいと思えます。また、教員免許が取得できる文学部・人間社会学部を含めた3学部の授業を同じ時間に設置することは難しいとは思いますが、教員を目指すさまざまな学生と一緒に学びあえることはとても重要であると考えられることから、そのような機会を提供することができないか、教職教育センターとも相談しながら、検討していきたいと思えます。	教育学部 (学校教育専攻)
				No.94で対応	教務部
	82	はい。支援教育コースは主免許が必須なので小・中・高のいずれかの授業もとり模擬授業を行います。支援学校での具体的な授業を知ることが出来る科目はなく、授業内で支援学校の模擬授業をすることはないのでそれをもう少し学べたらいいなと思います。	教員免許を取得できる教育職員養成課程では設置しなければならない科目や単位、内容について決められているルールがあります。本学独自に設置している特別支援教育に関する専門科目の中で学びを深めてもらいたいと思えます。	教育学部 (特別支援教育専攻)	
	83	自分の所属しているコースや学科ごとで専門的に学べる科目が多いので、学びたい科目が設定されていると思います。	学びたい内容をカバーする科目が開講されていると評価されていることは、教員側が発しているメッセージ、すなわち、それぞれの科目で教授している内容が個々の学生の将来や、広く社会にとって意義があると理解してもらっていることを示唆していると思えます。ひきつづき、専門性を高め、深める教授内容となるよう、教員側も自己研鑽していきます。	人間社会学部 (人間社会学科)	
	84	そう思います。	No.78で対応	教務部	
	85	私が学びたいことは、有毒物質や中枢神経系に作用する薬物なので、『毒性学』『薬理学』に含まれて設定されていると思います。	カリキュラムの内容が学生のニーズや時代の要請に沿うように、今後一層工夫してゆきたいと思えます。	薬学部	

質問項目	No.	学生委員からの意見	大学側の回答	担当部署
Q10 授業内容・方法は、きめ細やかな少人数教育を行ったり、学生参加型のアクティブ・ラーニング（グループワークやディスカッション等）を活用する等、工夫をこらしたものとなっていると思いますか。	86	はい。先生が話しているのを聞くという授業よりも、グループワークや自分の意見を発表したりする授業の方が多いと思います。	「グループワークや自分の意見を発表したりする授業の方が多い」と感じてもらっていて、学科としても力を入れているところであり、それを楽しんで、自分の力にしてもらえれば、うれしいです。	文学部 （日本語 日本文学 科）
	87	科目による。美術史学や歴史学系の授業においては、教授の話を聞いて写すだけになりがちである。	授業の履修者数が多い場合や、高度に専門的な知識・技能を教員の方から伝える必要がある授業においては、アクティブ・ラーニングを積極的に実施するのが難しい場合もあります。今後は、学生の希望を踏まえながら、アクティブ・ラーニングをよりよく運用できるよう工夫していきたいと思っています。	文学部 （歴史文 化学科）
	88	きめ細やかな授業内容、方法を活用している教員もいれば、授業内容がわかりにくく教員の話だけで終わる授業もあって、学生同士のコミュニケーションの場を設けている授業は、学生参加型のアクティブラーニングを活用していて、工夫がされていると思います。	工夫されているとの意見をありがとうございます。講義科目では知識を伝えることを重視している場合があるかと思いますが。学生のみなさんが保育者や教員側の立場になったときに主体的学びの実践が求められることを踏まえ、教育学部では学生参加型の授業を多く取り入れるよう、今後取り組んでいきます。	教育学部 （幼児教 育専攻）
	89	とてもそう思います。少人数での授業が多くあるため、先生に質問しやすい環境が整えられており、すぐに質問することができ、一人一人に対する時間を多くとっていただいていると感じています。また、グループワークがたくさんあるので、聞くだけの授業というものがありません。そのため、自分の考え以外にもこのような考え方もあるのだと新しい考えを見つけることができました。	No. 88で対応	教育学部 （学校教 育専攻）
	90	はい（授業内容・方法は、工夫をこらしたものとなっている）。	No. 88で対応	教育学部 （特別支 援教育専 攻）
	91	なっていると思います。	人間社会学部としては、一方通行の授業ではなく双方向で、教授した知識をつかって学生が考え、より深い理解につながるようアクティブ・ラーニングの導入に努めてきました。今後とも、そのような手法を取り入れた科目を継続開講するとともに、これまでの取組を恒常的にふりかえり、より効果の高いものとなるようにしていきます。	人間社会 学部（人 間社会学 科）
	92	スポーツ健康学科は人数が多いため必修の授業などではグループワークは難しいと思うが、選択授業や資格取得に必要な授業等は参加型の授業が多い。人数が少ない授業等ではグループで決めて発表することもあり、話し合う機会が多いと思う。	少人数教育は基本的にゼミで行われています。アクティブ・ラーニングとしては、通常の授業でもグループワークやディスカッション、発表等、学生の主体的な学びを取り入れた授業は結構あると思います。なお、アクティブ・ラーニングは、すべての授業に導入するものではなく、クラスのサイズや受講者人数によって導入が必要か、導入できるかどうかを各教員が判断しています。大学の授業は、ただ単に教員が教えるだけではなくて、学生の皆さんが自ら調べたり考えたり、それを持ち寄り共有したりすることでより深い学びにつながっていくと考えられることから、本学においてもアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れていくように、働きかけを行っているところです。	人間社会 学部（ス ポーツ健 康学科）
	93	少人数教育はありませんが、科目によってはSGDの機会が設けられていると感じます。	薬学部では複数の科目・学年でSGDを多用し、グループ内でのディスカッションの機会を多く担保しています。少人数教育体験があまりないのご指摘でしたが、4年次以降の薬局や病院における実務実習、配属先の研究室で取り組む薬学研究では、学生が1～数人ごとにテーマに取り組む少人数教育が実践されますので、お楽しみに。なお今年度1年生からは、ゼミナール等で少人数毎にそれぞれが異なる課題に向き合う機会を設けています。	薬学部 （薬学 科）
	自由記述	94	人によって苦手科目はそれぞれ異なるので、難しいことだとは思いますが科目別に苦手科目の補習などがあるとよいと思う。苦手意識があると自分からは勉強したくないけれども、わかりやすい視点で教えてもらえるような環境に身を置くことができたら、苦手意識の克服もできるのではないだろうか。	苦手科目も含めて誠実に取り組もうとしている姿勢に大変感心しました。苦手科目の補習ができたり、クラス別に分けられるような仕組みが作れないかどうか検討していきたいと思っています。また、先ほどの意見にあった教職課程における他学部の学生との学びについても、大変すばらしいアイデアであると思います。ただ、教職課程には厳しい条件があり、初等教育と中等教育とでは、たとえ同じ科目名でも別々の内容にしなければなりません。例えば、教育学部の中学校の科目と、文学部や人間社会学部の中学校・高等学校の科目等については、ある程度一緒に学ぶことができるものもあるかと思いますが、規定に反しないかたちで意見交流や共に学ぶ機会を設けることができないか検討していきたいと思っています。